



背景

平成16年(2004)10月19日、台風23号の接近に伴い^{あきさめ}秋雨前線が活発化して雨が降り始めました。一旦は小康状態しょうこうになりましたが、20日朝から夕方にかけて台風本体の雨雲により豪雨となりました。この大雨により香川県内各地で土砂災害、河川の氾濫などの被害が発生し、死者11名、全半壊家屋405棟などの大災害となりました。この話は、土砂が牛舎に入り込み、地域の人々が埋まった牛の救出に努力するという話です。

アクセス 災害現場付近(山脇集会場)

- JR讃岐財田駅より南東へ直線距離約1km
- まんのう町山脇
- 緯度経度 北緯34度07分18秒, 東経133度49分21秒



「警報が出たけん、避難せい」そう言っても、酪農家は牛が心配なので、「おる」と言っていました。牛が家計の収入源ですから。

平成一六年(二〇〇四)台風二三号の記録的な豪雨により、かつて国有林を買収して高度成長時代にミカンを植えた農地が崩れました。その下には酪農家があり、牛舎と新築の家を構えていましたが、牛舎が土砂にやられてしまいました。

翌日、うちの自治会は六〇何戸あるのですが、全部召集して、とにかく牛を助けられないかなからと、五〇人ぐらいで、人間への危険性がない範囲でこの日にやれることはやっただけです。

かわいそうに、牛は土砂の中に四本足で埋まってるじゃないですか。腹までつかえていました。手がつけられる状態ではありませんでした。助けられないのです。小さい機械やらウンボを持ってきて、土砂をのけ、後は手作業でのけて、二時ぐらいまでかかりました。

一頭は救出したときには生きていたのですが、足が折れたとかで、残念でしたが屠殺場に送りました。鉄骨の牛舎だったので、歪ゆがただけで、壊れませんでした。鉄骨がなければ住家も被災していたと思います。住んでおられた方は、「恐ろしい、もうあないとここに住みたくない」と言っていました。